

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793100088		
法人名	生活協同組合ヘルスコープおおさか		
事業所名	グループホーム 花しょうぶ(ユニット1F)		
所在地	大阪市旭区生江2-4-16		
自己評価作成日	平成27年6月22日	評価結果市町村受理日	平成27年8月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年7月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>何事も入居者様と一緒にいることを基本に考えている。また、入居者様の慣れ親しんだ生活様式が保てるようなサポートを心がけている。</p>
-----------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>生活協同組合ヘルスコープおおさかを母体とする事業所として、地域住民、組合員とつながりを基盤にして医療と介護の地域包括ケアを進めるとしている。                  日常での外出の位置づけ、接遇改善、リスク軽減、町会・地域との交流と家族との連携の深化、職員のスキルアップ等を2015年度の職場目標とし、職員各人も職場目標を有して暮らしの支援に当たっている。                  事故報告・是正処置・予防処置のリスクへの対応など、ISO9001の基準による各種の計画・行動・評価・改善の仕組みが、その人らしい暮らしを続けるための支援につながり、加えて、専門職としての気づきと人権尊重・擁護を両輪とするケアの実践が、利用者・家族・地域の安心と信頼の岩となる事を期待する。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2012年5月の事業所開所時に理念を作成。事業所玄関に掲示し共有できるようにしている。	生活協同組合を基盤とした地域交流を念頭に、「お一人ひとりが、慣れ親しんだ生活様式を保てるように、ゆっくりと見守っていきます」を掲示し、実践に活かすよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや近隣の保育園行事、防災訓練への参加、また、地藏盆を町会と共同開催している。	地域町会長の協力でホーム前庭での季節行事催行、地域組合員サークルのボランティア活動導入、月1回の生協地区運営会議への参加など、地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	生活協同組合の事業所なので地域の組合員に対して、学習会をおこなっている。また、老人会でも学習会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、非常に有意義な意見をいただけるので、今後の取り組みに繋げていきたいと考えている。今年度は4回開催した。	26年度は併設の小規模多機能と共同開催4回で終始している。地域の参加者は当町会長1人とし、小規模の利用者、家族、包括支援センター職員等の参加がある。	推進会議の意義を理解し、町会長との日程を調整しながらの定期開催に向けての努力に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常の相談の他、旭区のグループホーム連絡会に介護保険課、地域包括センターも参加し、情報の共有、意見交換を行っている。	公的支援受給者や親族不明者等の関係部署も含め、市の各関係担当課との連携・連絡・協力体制は十分に保持されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関およびフロアの施錠はしていない。また、会議の中で身体拘束の内容を共有している。	心・身体の「拘束」については十分に理解している。玄関施錠はないが、1階出入りはチャーム対応、2階の階段出入りは施錠している。「出たい」の原因を考察しての適切な対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や学習会の中で虐待について周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加や職場会議をつづけて周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ISO9001のグループホーム入居受付手順書に基づき説明と納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護事業所不適合管理事業所や苦情受付書を作成し、運営に反映させるようにしている。	面会時の談話からの意見・要望を丁寧に聞き取り、ISO9001の基準を用いた苦情対応で改善に繋いでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職場会議を開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、半期に1度職員面談を実施している。	月1回のフロアー会議、職員会議での意見・提案、日常の申し送りノート(相談員日誌)での気づき等を集約し、直決又は法人の裁決を経て運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に則って運営を行っている。職員の休憩室がなかったため、近所に部屋を借りている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年1回力量チェックを行っている。また、教育訓練計画を立て研修に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	旭区にある6つのグループホームで、3か月ごとに連絡会を行い情報共有・連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要求事項明確化手順書を作成し、その内容にそって入居者の要求する事項を明確にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要求事項明確化手順書を作成し、その内容にそって入居者の要求する事項を明確にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用する前にアセスメントを行い、そこから必要な支援方法を考え、必要であればその他サービスの利用も考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや、掃除、洗濯など入居者様と職員が一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、グループホーム通信を発行し郵送している。また、面会時間も設定せず、どの時間帯でも来訪できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方にも積極的に来訪してもらうように、家族の方に伝えている。	加齢と認知機能の低下で馴染みへの関心も希薄になるなか、ホームでの暮らしから生まれる馴染み、利用者同士や近隣、ボランティアとお付き合いの継続を支援していきたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性やかかわりの傾向を把握し、共に生活する者同士支え合える支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられたあとの訪問など、自然なつながりで支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の一言一言に耳も傾けることで、その方のニーズを把握することに努めている。	その人の生活の歴史を知り、利用者の行動や表情からの読み取り・気づきを、その人らしい暮らしの支援に繋ぐ努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の本人様の暮らしをご家族様から聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の入居者様の状況をフロア会議や申し送りの中で情報共有し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとのモニタリング実施。また、全スタッフがアセスメントを行うことで、現状に即した介護計画が作成できるように取り組んでいる。	個々人に関する各種の記録と月1回のカンファレンス(職員会議兼)に家族・連携医の意見等を加えて介護計画を作成し、見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の過ごし方がわかるような個人記録を使用し、申し送りにて情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様に必要であろうサービスが出てきた時は、家族・診療所・その他の機関と連携してサービス提供ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている、ふれあい喫茶や語茶会、イベント等に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と常に連携をとっている。往診は月2回あるが、体調変化時は随時往診あり。携帯電話にて24時間連絡可。	入所時に本人・家族・施設間での話し合いで決定している。現在、従来のドクターは2名、施設の協力医が16名で、協力医が24時間連携という事で同意を得ており、月2回の往診を受け専門科へは家族の協力を得て対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化があれば常に報告を行っている。また、24時間看護師への連絡が可能な体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先病院と情報共有を図り、早期退院に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化対応指針書を作成し、同意を得ている。開所以降5名の看取りを行ったが、家族・主治医・事業所の意思確認はしっかりと行うようにしている。	入所時に「看取りに関する意向確認書」により施設として出来る事・出来ない事を本人・家族に十分説明し同意を得ている。今迄に5名の看取りを経験し、施設の体制は整っている。家族・かかりつけ医・施設間の連携は十分されており家族も安心して施設に任せている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルは作成しているが、定期的な訓練はできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の連絡網には地域の方にも入ってもらい作成している。また、地域の防災訓練へも参加している。	年2回消防署指導による訓練と自主訓練が行われている。災害時の対応手順や役割分担のマニュアルを作成し地域の協力体制も整いつつある。設備に関してはスプリンクラー・消防署へのオンライン等整っているが備蓄に関しては今後の課題としている。	規定の訓練は行われているが、種々の災害について目的意識を持ち、スキルアップを目的にミニ訓練の回数を増やし、より安心・安全な施設になるよう一層の努力を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権意識・プライバシー・接遇については、職場会議、申し送りでも繰り返しその重要性について周知させている。	入居者を人生の先輩と考え、尊厳とプライバシーを損なわないよう、プライバシー保護や接遇マニュアルを作成し研修を行い、特に言葉使い・態度等を身につけるよう取り組んでいる。個人情報の管理も十分に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをする際は、必ず本人様に説明を行い、希望を聞くことで、自己決定できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念である「お一人おひとりが、慣れ親しんだ生活様式を保てるように、ゆっくりと見守っていきます。」の実現のため個別性を大切にサポートをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族から好みを聞くことや、暮らしから予想されることを日頃のケアに活かす支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく会話をしながら、一緒に料理をつくったり、片付け、洗い物をしている。	食材とメニューは業者より配送され職員が交替で調理している。検食は毎食行い、業者と連絡を取り合っている。特別食・行事食もあり、利用者の嗜好調査も行いメニューに反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事量や水分量を日々記録し、把握することで体調の良い状態を保ち、習慣を継続する支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き・入れ歯洗浄・口腔ケアシートなど能力に応じ支援している。また、必要な方には歯科往診を依頼し口腔内の清潔を保つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間の確認を行い、1人ひとりのスタイルに合わせた排泄ができるように支援を行っている。	利用者個々の排泄パターンを把握し、それとなく声かけし、トイレへと誘導している。自立を目指すと共に、家族負担軽減も考慮しての支援で、布パンツにパットのみの人も増えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分は1日1000mlは摂っていただけるように声掛けを行っている。また、その方にあった運動の促しを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回は入っていただけるように声掛けを行っている。時間は基本的には午後からであるが、随時個人の要望に応えるようにしている。曜日は特に決めていない。また、ゆず風呂、菖蒲風呂の工夫もしている。	入浴の基本は週2回としているが利用者の体調・希望により柔軟に対応している。入浴拒否には人を変え・時間を変え・日時を変え、足浴・清拭・シャワー浴等で対応している。又、季節により菖蒲湯・ゆず湯等の対応があり、リラックスした入浴を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの習慣や体調に応じて室温、明るさなどの環境を整えることで安心して眠ることができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりが服薬している薬の効能・副作用・用法・容量についてファイルし確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様と共同して、料理や掃除等を行うことでやりがい楽しみを持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や買い物、地域のイベントなどできるだけ外出の機会が得られるようにしている。また、ご家族様にも外出にご協力していただいている。	日常の外出を業務の重点ケアととらえ、気候・体調により外出を日課に取り入れ、利用者の希望等を考慮し近くの公園等に出かけている。家族やボランティアの協力・支援により、地域との交流とADLの改善を目指している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事業所で管理しているが、いつでも使えるように話をしている。また、本人様にも持ってもらっている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所の電話を自由に使用していただいている。また、電話設置・携帯電話等についても制限はしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	脱衣所に手すりを設置し、安心して入浴できるように改善した。共有の空間は、テレビやソファを置き自由にくつろげるようにしている。また、植物や音楽を鑑賞しながら、会話を楽しめるように支援している。	玄関入り口には祠があり、玄関前のベンチは憩いの場となっている。居間兼食堂には、行事の写真や、色紙の手芸品、テレビ・ソファ等でゆったり過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや屋外にベンチを設置し、くつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活様式が保てるように、本人・ご家族と相談しながら、馴染みのものの持ち込みをお願いしている。また、居室は全室畳の間としており、布団を使用される方も違和感なく生活できるようにしている。	居室は全て畳部屋で、落ち着いた家庭の延長の感があり、馴染みの家具・仏壇・家族の写真等が持ち込まれ、落ちついた空間となっている。又ナースコール・スプリンクラーが設置され安心・安全な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかる・できることに配慮した環境づくりを行っている。		